

# 日々是Oracle APEX

Oracle APEXを使った作業をしていて、気の付いたところを忘れないようにメモをとります。

2023年5月10日 水曜日

## APEX 23.1のOpenAPIファイルを使ったREST Data Sourceの作成について

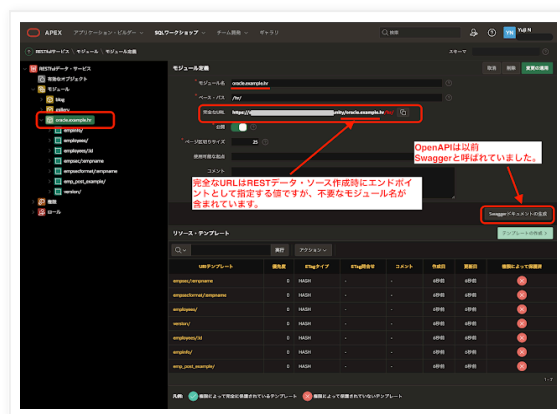
Oracle APEX 23.1ではOpenAPI仕様のREST APIの定義を読み込んで、RESTデータ・ソースを作成できるようになりました。

Oracle APEXに付属しているoracle.example.hrのモジュールを使って、OpenAPI定義を使ったRESTデータ・ソースを作ってみます。2箇所ほど不具合があり、その対策を説明しています。

最初にモジュールoracle.example.hrのOpenAPI定義を確認します。

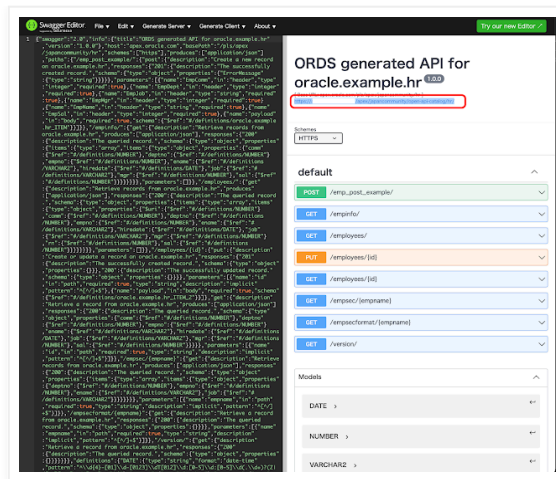
モジュール定義の完全なURLは、RESTデータ・ソースの作成時にURLエンドポイントとして与える値です。現行のapex.oracle.comではモジュール名oracle.example.hrがURLに含まれています。不具合なので、URLエンドポイントとして入力する際にはモジュール名の部分を削除します。

Swaggerドキュメントの作成をクリックします。SwaggerはOpenAPIの以前の呼称です。



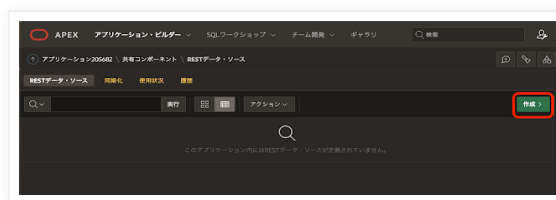
ボタンをクリックするとJSONドキュメントが生成されます。APEX 23.1からはSwagger Editorが開きます。JSONドキュメントにアクセスするURLが表示されているので、それをコピーしておきます。

このURLをRESTデータ・ソースを作成する際に、OpenAPI URLとして指定します。



RESTデータ・ソースの作成に必要な情報が揃いました。

共有コンポーネントのRESTデータ・ソースを開き、作成を実行します。



RESTデータ・ソースの作成として最初からを選択します。

次へ進みます。



RESTデータ・ソース・タイプとして簡易HTTPを選択します。名前は任意ですが、**oracle.example.hr**としました。

URLエンドポイントとして、RESTfulサービスのモジュール定義にあった**完全なURL（修正したもの）**を指定します。また、OpenAPI URLにはSwagger EditorからコピーしたURLを指定します。

次へ進みます。



リモート・サーバーの確認画面が開きます。

リモート・サーバーが新規作成される場合、サービスURLパスが"/"で始まっていることがあります。RESTデータ・ソースが正しく作成されないため、サービスURLパスの先頭に"/"がある場合は、それを削除します。

次へ進みます。



ページ区切りタイプは変更せず、ページ区切りなしとします。今回はORDSのRESTサービスであるため、実際にはページ区切りが実装されています。この設定はRESTデータ・ソースを作成した後に変更できます。

次へ進みます。

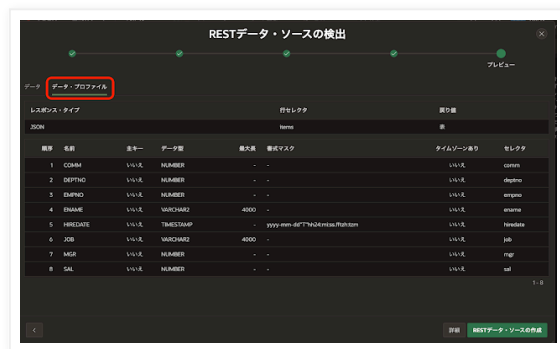


今回使用するRESTサービスは保護されていないので、認証が必要ではオフにします。

検出をクリックします。

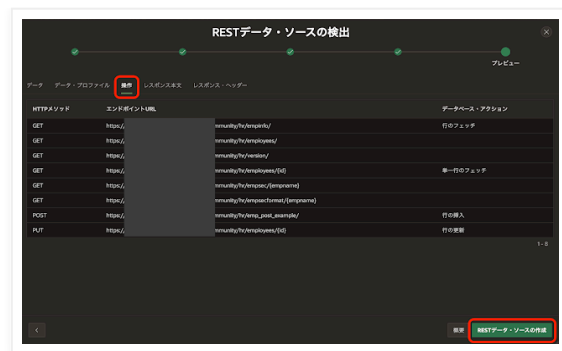


データ・プロファイルはOpenAPIの定義から生成されます。



詳細の操作にRESTデータ・ソースに実装されているエンドポイントURLの一覧が表示されます。

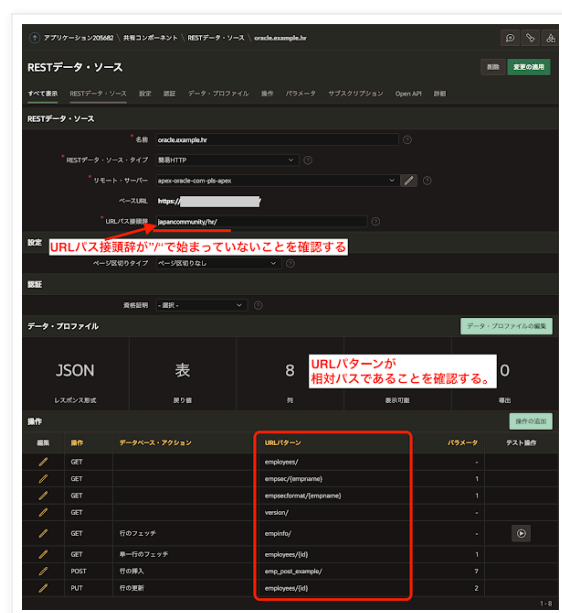
以上を確認し、RESTデータ・ソースの作成を実行します。



RESTデータ・ソースoracle.example.hrが作成されます。

作成されたRESTデータ・ソースを開いて、設定内容を確認します。

RESTデータ・ソースのURLパス接頭辞が"/"で始まっていないこと、および、操作のURLパターンがプロトコル（https://）で始まっていないことを確認します。



OpenAPI仕様の定義を読み込んで、RESTデータ・ソースを作成する手順の紹介は以上です。

Oracle APEXのアプリケーション作成の参考になれば幸いです。

完

Yuji N. 時刻: 17:29

共有

<

ホーム

>

ウェブ バージョンを表示

自己紹介

Yuji N.

日本オラクル株式会社に勤務していて、Oracle APEXのGroundbreaker Advocateを拝命しました。  
こちらの記事につきましては、免責事項の参照をお願いいたします。

[詳細プロフィールを表示](#)

Powered by Blogger.

---